

〔I〕 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

「<sup>A</sup>母親の権利」とは、妊娠の継続をどうするか自己決定権のことです。本来、自己決定権とは大変重みのあるもので、周囲の人間はそれを尊重しなければいけません。ところが、日本ではこの自己決定するということが大変難しいと言えます。それには理由が二つあって、自分だけの判断でものごとを決めるということを私たちが苦手に行っているということが挙げられます。もう一つは、日本では妊婦は常に周囲から不安を煽<sup>あお</sup>られ、<sup>B</sup>あやふやな情報に惑わされるからです。

そうした面があるにもかかわらず、障害胎児の中絶を積極的に許容する人たちは、ことさらに「母親の権利」を<sup>①</sup>声高に主張します。ところが、胎児に障害があっても出産を決意した人に対しては、私たちの社会では「母親の権利」という言葉は一転して聞かれなくなります。これでは、「母親の権利」という言葉が、都合よく使われているだけという印象を受けます。

日本の社会は、本当の意味で「母親の権利」が確立される必要があります。そうなったときに、障害胎児の中絶の（1）についてさらに議論が深まるはずですが、「母親の権利」という言葉が、単に「困難から逃げたい」「面倒ごとを避けたい」といった動機で、中絶を正当化するために安易に使われれば、この言葉の重みはむしろ失われてしまうでしょう。

そしてパートナーである男性も、「母親の権利」という言葉を使って問題を母親に丸投げしてしまうことがあると、私は産科医から聞いたことがあります。パートナー同士が対等の立場に立ち、ともに困難に向き合って熟考することができたとき、はじめて「母親の権利」という言葉が生きてくるのではないのでしょうか。

また、障害胎児の中絶することは、出生前診断に<sup>②</sup>潜む優生思想に与<sup>くみ</sup>することになりかねません。優生思想とは社会的な運動や政治思想だから、個人の判断は優生思想に無関係であるという立場の医師もいます。そうかもしれないかもしれませんが、残念ながら、優生思想が私たちの世界を不幸にしてきたのは、歴史を見れば明らかです。

生命倫理を論じるときには、必ず「滑りやすい坂」という言葉が出てきます。倫理的な規範を一つ緩めると、また次の段階で規範が緩み、坂を滑るようになどどこまでも際限なく倫理的規範が緩むという（2）です。新型出生前診断の規制を日本産科婦人科学会が緩和することを決めたのは、まさに坂を一步滑ったと言えます。個人が優生思想を受け入れると、やがて社会全体が優生思想に染まります。

そして障害胎児の中絶が一般的になると、そのこと自体が現在生きている障害者の権利を<sup>C</sup>抑<sup>おさ</sup>えかねないことも考える必要があります。障害を生きる家族の人たちは、こうした報道に接するたび、大変不安な気持ちになり、自分たちの生活が<sup>③</sup>脅かされるような心境になることを私たちはよく知っておかなければなりません。

遺伝情報に関する出生前診断を「受けるべきでない」と言うつもりは私にはありません。それは個人の自由であるし、それこそ「母親の権利」でもあると考えるからです。ただ、ここで

<sup>D</sup>立ち止まってよく考えてみれば、こうした出生前診断というのは、事実上ダウン症の診断に他ならないと気付くはずだ。

この世の中には多種多様の、そして大勢の障害者がいますが、ダウン症はそのほんの一部に過ぎません。ダウン症の赤ちゃんは、1000分の1の頻度で生まれます。そしてすべての先天異常の頻度は25分の1と言われています。つまり、先天異常に占めるダウン症の割合は、40分の1に過ぎないのです。

別の視点で考えてみます。知能指数（IQ）が35未満で寝たきり、または、座位までの障害者を重度心身障害といえます。重度心身障害の原因は多岐にわたりますが、その中で染色体異常が占める割合はわずか5%に過ぎません。そしてダウン症は重度心身障害にも含まれない軽度から中等度の障害です。

たくさんの障害児を見てきた私からすると、ことさらダウン症を<sup>E</sup>ターゲットにした出生前診断は、一体何をしたい検査なのかよく分かりません。この検査を進めていって、圧倒的大多数の人が<sup>注</sup>21トリソミーの胎児を中絶して幸福な社会が訪れるのでしょうか。障害を理由にわが子を墮胎して、母親は本当に幸福になれるのでしょうか。

この問いに答えるためには、まず、何といっても<sup>F</sup>よく「考える」ことが重要です。気分や風潮に流されて検査を受けると後に<sup>G</sup>ク<sup>4</sup>いることになるかもしれません。そして「考える」ためには、障害児とその家族がどうやって生活しているのかを「知る」必要があります。

インターネットの広がりによって、今の時代は情報を簡単に手に入れられるようになっていますが、「知る」ということを安易に行わないようにしたいものです。ネットの中の情報には（3）もあれば（4）もありますから、それだけでは不十分でしょう。ネットは情報を集めるための入り口です。そこからさらに一步を踏み出して、書籍や専門家の話などから中味の詰まった情報を得てみてください。

そして「知る」だけでも不十分でしょう。単に「知る」だけでは偏見に<sup>H</sup>オチイ<sup>5</sup>ることもありません。相模原障害者施設殺傷事件がなぜ起きたのかと言えば、犯人が以前に施設で働いていて障害者の生活を悪い意味で「知って」いたからです。医療従事者の中にも障害児に対して非常に否定的な考えを持っている人がいます。それは障害児の負の側面しか見ていないからです。「知った」あとは、しっかりと「理解」することを試みてください。家族が障害を受容することの意味、障害とともに生活することの意味、その人生を生き抜く意味をちゃんと「理解」できれば、物の見方が変わっていくと思います。

（松永正訓『いのちは輝く——わが子の障害を受け入れるとき』より）

注 21トリソミー——ヒトの体細胞には23対の染色体があり、そのうちの22対は男性でも女性でも変わらない常染色体で、1番から22番までの番号がついている。21番目の染色体が、突然変異によって1本多くなると、ダウン症を発症する。

問一 傍線①く⑤のカタカナは漢字に直し、漢字は読み方をひらがなで書きなさい。

問二 傍線A「母親の権利」の説明として適さないものをアくオの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 日本人は自分だけの判断でものごとを決めることを苦手に行っている側面があり、妊娠の継続をどうするかという自己決定権が尊重されない場合もある。

イ 妊娠した女性はいろいろな情報に接し、常に周囲から不安を煽られがちなので、日本には妊娠を継続するかしないかについて他者の介入を許しやすい雰囲気がある。

ウ 胎児に障害があっても出産を決意する人たちより、障害胎児の中絶に積極的な人たちの方が、実際には妊娠の継続に関する自己決定権を深く真剣に考えている。

エ 障害胎児を妊娠した可能性があると、困難から逃げたい、面倒ごとを避けたいために中絶を正当化する方便として、自己決定権が持ち出されることもある。

オ 障害胎児を妊娠したときも、妊娠の継続をどうするか、母親と父親の両性が対等の立場で熟考する姿勢こそ、本来は自己決定権と呼ぶにふさわしい。

問三 傍線B「あやふやな」と同じ品詞の言葉をアくオの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。なお、アくオはいずれも本文中にあり、それぞれに波線が引いてある。

ア さらに イ 安易に ウ ともに エ まさに オ 本当に

問四 空欄（ 1 ）に最も適するものをアくオの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 是非 イ 正義 ウ 道理 エ 理由 オ 機構

問五 空欄（ 2 ）に最も適するものをアくオの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 直観 イ 警句 ウ 逆説 エ 名言 オ 風説

問六 傍線C「抑圧」の対義語として最も適するものをアくオの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 推薦 イ 点検 ウ 促進 エ 創設 オ 助長

問七 傍線D「立ち止まって」の本文中での意味として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 個人の自由を再確認し、周囲の意見を一度すべて遮断してみて
- イ 医学からの視点だけではなく、法学からの視点も交えてみて
- ウ 出生前診断の仕組みと目的を、十分に時間をかけて専門的に学んでみて
- エ いったん冷静になって、すべての考えを頭の中から追い払ってみて
- オ 気分や風潮に安易に流されず、さまざまな事実と照らし合わせてみて

問八 傍線E「ターゲット」を言い換えた言葉として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 悪役
- イ 標準
- ウ 天敵
- エ 対象
- オ 目的

問九 傍線F「よく『考える』」とあるが、その説明として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 障害児とその家族がどうやって生活しているのかを「知る」ことで、後になって必ず嫌な思いをする遺伝情報に関する出生前診断を受けないようにする。
- イ 現代はインターネットが広がり過ぎて、でたらめな情報ばかりが出回るようになっているので、インターネットからは一切情報を得ないようにする。
- ウ 中途半端に「知る」だけでは偏見にとらわれるばかりなので、「知る」ことはさておき、ひたすら自分の思いや考えをじっくり煮詰めるようにする。
- エ インターネットだけではなく、書籍や専門家の話からも中味の詰まった情報を得て、そのうえで情報を深く理解し、世間一般の物の見方のみにとらわれないようにする。
- オ 家族が障害を受容することの意味、障害とともに生活することの意味、その人生を生き抜く意味を、当事者の立場を想像しながら、真剣に受け止めるようにする。

(次のページに続きます)

問十 空欄（ 3 ）・（ 4 ）に入る言葉の組み合わせとして最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 3 玉 4 石 イ 3 金 4 銀

ウ 3 森 4 木 エ 3 強 4 弱

オ 3 天 4 地

問十一 本文の内容に最もよく合致するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 障害胎児の中絶と出生前診断、優生思想という三者は密接に関連し合っているので、妊娠と出産あるいは中絶にどう対処するか、現在では総合的な知見が求められる。

イ 優生思想は社会的な運動や政治思想だから個人の判断は無関係で、そもそも医療者は社会科学には無関心であるべきだという立場に立つ医療者が日本には少なくない。

ウ 新型出生前診断の規制を日本産科婦人科学会が緩和することを決めたことではじめて、日本の生命倫理の規範は際限なく緩んでしまったと多くの論者が指摘している。

エ 遺伝情報に関する出生前診断を受ける自由を最大限確保すると同時に、いつそう精密なダウン症の診断方法を開発することが現代医学には強く求められている。

オ 障害児の負の側面しか見ず、障害児に対して非常に否定的な考えを持つ医療従事者は著しく適性を欠くので、資格免許剥奪の上、解雇することが望ましい。

〔Ⅱ〕 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

人は文章を読むとき、そこから書いた人の人格を読み取ろうとするものです。

人格的にいっしょに仕事ができるような人間なのだろうか、ちゃんと物事を深く考えられる人物なのだろうか、<sup>A</sup> 社会性はあるだろうか、自分を持っているのだろうか、( 1 ) おもしろい人間なのだろうか……。

そんないろんな要素を文章の中から読み取ろうとするのです。

とすれば、<sup>B</sup> <sup>まね</sup>何かを真似て模範解答もどきの文章を書き連ねても意味がないということです。むしろ、文章は多少<sup>①</sup> 稚拙であつても自分の奥底を掘り下げて、自分はこういう出来事と合わせてこう考えたとか、どんな人と出会つてどんなことを考えて、今にどうつながっているかなどといった、その人ならではのストーリーや考え方を読みたがつているのです。

そういう意味では、形式的なだけではなくて、文章に個人の特徴・特性というものを盛り込んでいく力、それもまた社会人にとつて必要な書く力なのだと言ふことができるでしょう。

そして、現代社会においては、ビジネスシーンでこそ人間性が必要とされるようになっていきます。個人として信用されるか否かで大きく差がつく時代になっています。

頭の良し悪しや口のうまさなどより人間性が重要です。それは大きな仕事になればなるほど大切なポイントになってきます。ですから、やりとりをしている中で、「この人は信頼がおける」と思ってもらえたときに、もう一段階上の仕事につながっていくということが言えるでしょう。それだけに、適切に自分らしさを盛り込み、個人として相手に信用される文章を書く能力が、仕事の成否を左右するのです。

用件を伝えるのももちろんですが、そこに自分の感情をうまく乗せていく。それもまた社会人にとつての必要な「書く力」です。

【私は大学の教員採用も<sup>②</sup> タントウします。公募の応募者はとても多いため、全員を面接するわけにはいきません。( 2 ) 教育学の分野の公募で、「現在の教員養成の課題とは何か」といった課題の小論文を書いてもらっています。

それを五人の審査員が読み込んで面接にきてもらう人を選ぶわけですが、小論文を読むと、「この人は非常に当事者意識を持って書いているな」「この人は人ごとみたいに書いているな」「この人は現実を把握しようという意識が<sup>③</sup> キハクだな」などという点について、五人の意見はほぼ一致するものです。

もちろん、総合的な審査をすることで採用するかしないかを決定していくことになるのですが、やはり、( 3 ) が表れる小論文は審査の中でも非常に大きな比重を占めています。【

これは採用試験の小論文に限ったことではありませんが、他人に自分をアピールする文章を

書く際にまず必要なのは、求められたことにきつちりと答えるということです。しかし、それだけでは足りません。

それに加え、当事者意識を持って問題に取り組んでいけるかどうか問われるのだ、ということをおぼえてはなりません。自分がやるのだったらどうやるのかという点を明確に示し、それを文章で展開しなければならぬということです。

そして、そんな文章を書くためには二つの視点を持っていることが求められます。『巨視的な視点』と『個としての視点』の二つです。

巨視的な視点とは、問題を一般的なものとしてとらえ、どう対処するかということです。

そのためにはまず、一般的な常識や知識を持っている必要があります。しかし、それはある意味では誰にでも書けることでもあります。

より大切なのは、もう一つの『個としての視点』です。

自分がその問題に対して取り組むとしたら、自分の経験を踏まえてどう取り組むのかを、<sup>D</sup>具体的に書けるかどうかということです。その視点にこそ、その人自身の本質が表れることになるからです。

そのようなマクロの目とミクロの目。その両方をつなげて書くことではじめて、この人は問題を自分のものとしてとらえているな、という当事者意識が感じられるようになるのです。

当事者意識が感じられる文章を書くには、<sup>④</sup>ヒゴロからそのように考えているのが第一です。自分が働いている会社や業界で起こることなど、どんなことでも自分のこととしてとらえて考えていくことです。結局それが一番の近道になります。

とはいえ、速攻で当事者意識を感じさせることができる、ちょっとしたテクニックはあります。それは、個人的な<sup>E</sup>エピソードを盛り込むというテクニックです。

私は犬を飼っています、仕事上でつき合いのある人も犬を飼っている場合には、仕事のメールで用件の後ろに、犬の調子が悪いとか、調子がいいとか、ちょっとした話をくつつけてやりとりするようにしています。

そうしてお互いに犬の話をやりとりしているうちに、その相手とは個人的な関係というものができたような気がしてきます。

そうやって個人的な共感関係を築いておくと、何かしらちょっと行き違いがありそうなきでも、スツと確認の連絡を入れやすくなります。また、ちょっとした用件でもお互いに頼みやすくなってくるのです。

同じような仕事をしていても、そこに個と個の関係を築くことができるかどうか、ビジネスパーソンとしてより力を<sup>⑤</sup>ハッキできるかどうかの分かれ目だと思いますが、そこには書く力も大きく関係しているのです。

実用性だけでは、人と人との結びつきを深めることはできません。社会人なら、常に実用性と、「個の感情」というものを両輪にして回していくことを心がけるべきでしょう。

(齋藤孝『読む・書く・話すを極める 大人の言語スキル大全』より)

問一 傍線①～⑤のカタカナは漢字に直し、漢字は読み方をひらがなで書きなさい。

問二 傍線A「社会性」の意味として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア どんなことでも社会全体の問題として考察できる資質。
- イ 周囲にいる複数の他者と円滑に交わり協働できる能力。
- ウ 個人の利益を犠牲にして集団に貢献しようとする志向。
- エ 社会人としての礼儀やマナーを十分にわきまえている人柄。
- オ 私的な領域と公的な領域とを明確に線引きしようとする意志。

問三 空欄(1)・(2)に入る言葉の組み合わせとして最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 1 あるいは 2 けれども
- イ 1 あるいは 2 たとえば
- ウ 1 けれども 2 たとえば
- エ 1 すなわち 2 けれども
- オ 1 すなわち 2 それゆえ

(次のページに続きます)



問四 傍線B「何かを真似て模範解答もどきの文章を書き連ねても意味がない」とあるが、その理由として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 他の誰よりも、優れた社会性を備えて人格が完成されていることを強くアピールするには、参考にできる文章なんてあるはずがないから。

イ 堅苦しい形式をあえて大きく崩して、模範解答もどきよりも故意に下手な文章を書いてはじめて、特異な個性が明確に主張できるから。

ウ 自分の人格を読み取ってもらえるように、他者とは異なる個人の特徴や特性を文章に盛り込まなければならないから。

エ どんな出来事や人との出会いを通じて現在に至っているか、その人だけの愉快で明るいストーリーを、文章には必ず書く必要があるから。

オ ビジネスシーンで自分がどれほど必要とされる人間であるかを証明するには、その証拠となる誰にも負けない自分だけの強みを文章に書かなければならないから。

問五 【 】内の文章の本文全体における働きとして最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 小論文の評価は審査員によりけりなので、審査員という読み手の存在など気にせず、自分の書きたい文章を書いて個性を押し出す勇気を鼓舞している。

イ 人事採用の現場で、小論文のどんなところがどのように評価されるかという実例を示し、個人として他者に信用される文章を書く能力の大切さを再び強調している。

ウ 人事採用では、小論文よりも面接がはるかに重要なので、面接にたどり着くためには、審査員に強烈にアピールする文章を書く必要性を力説している。

エ 人事採用は、表向きは総合的な審査で採用の可否を決定するとなっても、多くの場合、実用性の高い文章が書ける人物が優遇される現状を嘆いている。

オ 課題の小論文に対する評価は、審査員が五人いれば全員の意見がほぼ一致するものなので、必ず誰からも好感を持たれる文章を書くべきだと教示している。

問六 空欄（ 3 ）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 経歴    イ 人格    ウ 教養    エ 能力    オ 感情

問七 傍線C「展開しなければならぬということですが」を単語に分解した数として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 六    イ 七    ウ 八    エ 九    オ 十

問八 傍線D「具体的」の対義語として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 抽象的    イ 総合的    ウ 主体的    エ 典型的    オ 一般的

問九 傍線E「エピソード」を言い換えた言葉として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 裏話    イ 寓話<sup>くわ</sup>    ウ 訓話    エ 講話    オ 挿話

問十 傍線F「個の感情」の説明として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 自分が何かの問題に対して取り組むとしたら、自分の経験を踏まえてどう取り組むのか、どれだけの情熱をもって取り組むのかという心意気。

イ 自分が働いている会社や業界で起こることなど、どんなことでも自分のこととしてとらえて考えていこうとする当事者意識。

ウ たとえば犬を飼っているなら、仕事上での連絡でも常に犬の話題を盛り込むように、個人の私生活も仕事の成功のためには最大限に公開しようという覚悟。

エ 仕事上で付き合いのある人との共通点をできるだけ多く見つけて、仕事を超えて私生活でも友人となる個人的な関係の親密さ。

オ 仕事上の付き合いでも、組織の一員同士としてではなくて、個人と個人という関係を築き、そこから得られる個人的な共感。

(次のページに続きます)

問十一 本文の内容に最もよく合致するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア ビジネスシーンでは大きな仕事になればなるほど、頭の良し悪しや口のうまさはもちろん、誰にでも好かれるという人間性が大切なポイントになる。

イ 社会人にとって必要な「書く力」では、用件を伝えることより、いかに自分の感情をうまく乗せていけるかということが、はるかに重視される。

ウ 他人に自分をアピールする文章を書くためには、求められたことにきっちり答えたいうえで、当事者意識を持って問題に取り組めることを明確に主張する必要がある。

エ 一般的な常識や知識は誰にでも示せるので、それを犠牲にしても個としての視点を強く前面に押し出すことができる優れた文章をものにできる。

オ ビジネスパーソンとして活躍するためには、まず書く力を通じた間接的な対人関係を確立し、次にそれを基にした直接的な対人関係を構築する。

国語

解答用紙一

[I]

問十一	問十	問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一	④	①
											いる	
											⑤	②
											る	む
												③
												かす

受験番号	
------	--



〔Ⅱ〕

国語

解答用紙二

問十一	問十	問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一	
										④	①
										⑤	②
											③

受験番号	
------	--

